



### 御眞影

#### 奉戴式當日の注意

外來者には不便を與へるな

平町では近く開催される菊  
花品評會その他各種の催し  
で縣内外の人々が多數入込  
むためこれ等外來客に不便  
を與へぬやう同町内旅館全  
部に注意書を配布したがな  
は來る十三日警城中學校講  
堂に開かる、御眞影奉戴式  
當日は不敬にわたらぬやう  
町内各戸に對しそれ、注  
意書を配布した

#### 松タケ狩り

十七日に催す

平營林署にては例年の通り  
十七日玉山温泉裏の白岩山  
にて松茸狩りを催す由であ  
るが會費は一圓五十錢にて  
参加者は十五日迄に申込ま  
れたしと尙ほ當日は午前六  
時十分平驛發にて出發する

#### 送炭制限は

十一月十二兩月  
も續行に決す

常磐石炭鑛業會では送炭制  
限の繼續方についてこの程  
種々協議中であつたが一般  
の状況に鑑み十一月十二の兩  
月とも現行送炭制限をその  
まゝ繼續することに略々決  
定を見何れ来る二十五日こ  
ろ開かれる石城聯合會理事  
會の結果をまつて確定する

#### 女房に呉れた

相手の頭に傷害

石城郡内郷村綴炭礦坑夫秋  
本集(三)は同僚の獨身者  
片平(三)が自分の妻に  
アイオリンの唄本を與へた  
爲め妙に氣を廻して憤慨し  
九月午後七時頃片平を自宅  
に呼び寄せ「何故俺れの婦  
にコンナものを呉れるとは  
一体何事だ」と怒り出し火  
箸を振り上げて頭を殴り付  
け治療日數十日を要する傷  
害を加へ平署に引致された

#### 職工が重役に

給料を支給

赤井の耐火煉瓦  
石城郡赤井驛前に工場を有  
する磐城耐火煉瓦株式會社  
は好況時代元内閣書記官長  
林田龜太郎氏等の發起で資  
本金百萬圓第一回拂ひ込み  
二十五萬圓で大正十年創立  
され當時は耐火煉瓦専門の  
製造工場として可なり好成  
績をあげて來たが財界不況  
の結果經營難に陥り最近で  
は職長久野以下十數人の職  
工給料の未拂ひ一萬圓近く  
あり會社としては殆ど手も  
足も出ないため過般重役會  
議を開いた結果營業一切を

職工全部に一任して重役は  
職工より給料の支給され辛  
うじて營業を續けるといふ  
珍現象を來してゐるが今後  
重役對職工が如何なる態度  
によつて同會社を處理する  
か一般から興味を以て見ら  
れてゐる

#### 京阪の旅から

一平・商京阪旅行團

(第二信)夜の九時五十分  
吾等に乗せて東京驛を後  
にした汽車は、只雨をぼ  
る暗の中を進むのであつ  
た、車中は唱歌に談話に  
賑はひ、天下の嶮箱根山  
も氣高い富士の姿も汽車  
の窓から唯あちらかた見  
當がつくのみであつた。見  
山部赤人が詠んだ田子の  
浦、三保の松原を過ぐる  
頃には一人寝ね二人眠り  
車中はひっそりと静まり  
かへつた。……越すに越  
されぬ大井川、今日は高  
い鐵橋によつて夢の間に  
越された、朝顔日記の一  
節を思ひ出した。列車は  
依然として二條のレール  
を進行するのであつた。  
豊橋あたりから夜は白々  
と明け初めた、近頃發展  
したらしいステーション  
を二つ三つ過すまで六時半  
熱田に下車して神宮を拜  
した。こゝを辭して名古屋  
屋に電車にて向ふ、名古屋  
屋城は御大典の準備で縦  
横に金の飾を眺めた。名古  
屋より鳥羽行に乗つて伊  
勢に向ふ、清流急なるあ  
たりを過つて山田着午後一  
時半、外宮を参拜し直ち  
に電車を駈つて内宮に向  
ふ、五十鈴川に架する宇  
治橋を渡ると早や清酒な  
る神苑に西行ならぬ身も  
いつ知らず襟を正すので  
あつた。古杉鬱蒼とした

神路山の麓清冽なる五十  
鈴の流れに身を淨めて、  
玉垣御門に整列して拜禮  
した。濱松あたりから雨  
は止んだ、秋の夕陽傾む  
く四時二見浦に着く。天  
岩戸や夫婦岩を見、さ  
わの壺焼を味ひ具細工な  
どに雜糞を膨らまして宿  
に歸つた

(七日二見にて)

(第三信)起ると雨がし  
と、降つてゐる、二  
見から奈良に向ふ、物や  
はらかな秋の感觸に包  
まれて込み、旅にある  
身を思はせられた。いは  
ゞ奈良の都をシンボライ  
ズした、春日神社の朱塗  
の太い丸柱と白い壁とに  
はなんとなしに心は動か  
されがちだつた。色彩に  
は富んでゐるがごとくな  
く落ちついた感傷的な町  
であつた。啼く鹿の聲でも  
聞かうと期待はしたも  
の、チタ／＼降る雨に空  
くなくなつてしまつた。然  
し吾等にはかへつて情趣が  
深かつた。あの銀絲のや  
うに降る雨の中に鮮  
やかでない色彩が、非常  
な情緒と共に鳴をそよ、つ  
てくれた。猿澤の湖畔に  
佇んで櫻がさした大宮人  
を想ひ起した時、無限の  
執着を深かつた。そこに  
くなくあつたらう。そこ  
あの朱塗の祠と敷知れぬ  
石燈籠とあの愛らしい瞳  
をうるませて人なつこく  
追つ来る仔鹿を點じた時  
更なるものがあつたので  
はなかつたらうか。絹の  
やうな雨にけふつた柳も  
旅には相應しいもの、一  
月堂、二月堂と見て東大  
寺に行く、そこで名物力  
餅を食つて力一杯鐘を叩  
けば餘韻一入昔を思はす  
るものがあつた。奈良に  
名残を惜んで大軌電鐵に  
て生駒トンネルを通つて  
大阪にゆく、浪葉の夜景

と商況とを見て宿に泊る  
(八日發)

#### 募集

文藝其他投稿  
を募集します

來の頻繁なものだ。忙は  
しい街だ。華々しい街だ  
次いで造幣局を見學ぶ、  
京阪電車で京都に向ふ、  
織るが如き人と共に先づ  
桃山御陵を拜した。緑の  
雨の降る中に、雨具も外  
套も脱いで嚴肅に後陵の  
前に立つた。時は暫し無  
言の儘一種の靈光に打た  
れて首は自然とたれるの  
であつた。明治の聖世を  
偲ばず居られなかつた  
邊りの青松には秋風が音  
づれてゐた。参拜の人群  
の中につけてこの雨に頭  
をすりつけて拜してゐる  
老人も見つけた。實にこ  
れこそ吾等國民特有の尊  
嚴とてなつてゐる。なん  
らう。所謂紅殻塗の萬都  
に入つたのは紫の都が更  
に紫の夕暮に包まれ初め  
る頃であつた。(九日發)

#### 入場券が獨りで

飛び出す機械を

平驛待合室の一隅に設置  
十三四日頃から使用

平驛では三百餘圓を投じ待  
合室一隅に入場券自動出札  
機を取つて試験中のところ  
非常に良好なので來る十三  
四日頃から使用するが同機  
は五錢白銅一枚を入れ中央  
にあるボタンを押せば自動  
的に入場券が出て來る極め  
て巧妙に出來る新式の機械  
である

#### 小野田武道試合

石城郡警崎村小野田武徳會

にては十三日午前十時から  
優勝旗争奪の擊劍、弓道、  
銃劍術大會を開催すると  
塵芥自動車  
石垣に押付  
避け損ねて

平町下河原金成國雅は十一  
日午前十一時頃立町街路を  
塵芥運搬自動車運轉中後方  
より乗合自動車疾走し來り  
追ひ越さんとする依り避け

#### 漁船は無事

一隻は未だ不明

過般の暴風雨にて航路を氣  
つかはれた石城郡江名町須  
藤武四郎所有漁船幸榮丸(一  
乗込員廿三名)同町金成長  
治所有漁船福吉丸(同廿六  
名)の兩船は昨夜無事歸港  
したが同町吉田榮吉所有漁

#### 有聲座に

上演の『家なき兒』

佛國から叙勳された  
世界最高の名譽映畫  
家なき兒は明十二日より十  
八日まで有聲座に於て上映  
されることになつたがこの  
映畫は大文豪エクトルマロ  
の原作で、世界的に讚辭  
と幾多感激を受けた讀物で  
ある。長くもこの『家なき  
兒』は澄宮殿下の御覽の  
榮を賜はり文部省の推薦す  
るところとなり一般に見る  
ことを勧めつゝ居る、子を  
持つ親が子女の教育には實

#### 平第二運動會

平第二運動會 平第  
二小學校に於ては廿一日午  
前八時半より秋季大運動會  
を開催する